

研究者ら可能性など探る

2月16日「館山まるごと博物館」でシンポ

地域の自然遺産や文化遺産を「まるごと博物館」と見立てるエコミュージアムの手法が、市民による生涯学習として全国的に広がりを見せる中、館山市での取り組みを検証するシンポジウムが2月16日、市内のたてやま夕日海岸ホテルで開催される。この分野の第一人者による基調講演やパネルディスカッションをとお

して、取り組みがどんな未来を創造できるのか、その可能性と課題を探る。

20年にわたり文化財保存運動を展開してきた「館山まるごと博物館」のま

た同博物館の活動は、地元住民の絆を育むとともに、共通の歴史をもつ地域間の連携として、広域に亘り交流に発展している。

学大学院教授で日本エコミュージアム研究会前会長の大原一興氏を迎えて、同日午前10時から「椿の小原家庭園午前中に見学会」が開催される。この後、林浩二（県立中央博物館学芸員）、ジョン・イルジ（神奈川大学助手）、杉江敬（館山市

教育委員会生涯学習課文化財係長）、愛沢伸雄（安房文化遺産フォーラム代表）の4氏をパネリストに話し合う。

午後1時半～4時までで、参加無料で興味関心のある市民の来場を呼びかけている。

午後1時半～4時までで、参加無料で興味関心のある市民の来場を呼びかけている。

に時間までに集合する。

小原家は、築160年

の和風建築で、離れは映

画「赤い鯨と白い蛇」の

口けにも使われた。三代

の館」として知られる同

市南条の小原家庭園の見

学会が開かれる。参加希

望者は、同所の観音寺前

に時間までに集合する。

その孫の謹治（1910～1999）は、館山

洋漁業株式会社の設立と

経営に関わり、安房の近

代化に大きな役割を果た

した。

その孫の謹治（1910～1999）は、館山

洋漁業株式会社の設立と

の館」として知られる同市南条の小原家庭園の見学会が開かれる。参加希望者は、同所の観音寺前に時間までに集合する。

小原家は、築160年の和風建築で、離れは映画「赤い鯨と白い蛇」の口けにも使われた。三代の当主・小原金治（1859～1939）は、館山の浜」「山王」などと名

付けられ10種類にのぼる。

この後、林浩二（県立中央博物館学芸員）、ジョン・イルジ（神奈川大学助手）、杉江敬（館山市

洋漁業株式会社の設立と経営に関わり、安房の近代化に大きな役割を果たした。

その孫の謹治（1910～1999）は、館山洋漁業株式会社の設立と